

伊藤忠商事株式会社

伊藤忠商事では、自然保護に対して積極的な活動を行っています。自然を守る募金活動をはじめとし、NACS-J主催の「自然観察指導員」講習会の受講、地元や社員の子供達の「地球環境関連」の夏休み自由研究の手伝いなど、ボランティア休暇制度を活用し広く社員への参加を呼びかけています。



11月17日、伊藤忠商事の社員の方と、東京・青山の都会の真中でどんなふうに自然と親しんでいくかというポイントを、NACS-J普及・広報部の大野さんがレクチャーされましたので、その内容をレポートします。

伊藤忠商事 [DIGITAL SPHERE]
<http://www.itochu.co.jp/main/>

NACS-Jボランティアスタッフ・小川
光江

「社会貢献に対するマインドを持ってもらいたい」 ～ オフィスのまわりでの昼休み自然観察会～

秋晴れの中、社員の皆さんを対象に「お昼休みの自然観察会」として、青山通りの銀杏並木に行くはずが...当日は生憎の雨模様。仕方なくオフィスの会議室で行うことになったのですが、果たして、いったいどんなふうにして自然を体感できるのか、かなり楽しみでありました。

大野さん曰く、「まず大事なことは五感（視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚）を使って観察すること」だそうです。私たちは、通常「目」だけで自然を楽しんでいる場合が多いと思いますが、音を聞いたり、においをかいだり、手で触れてみたりすることによって、何倍ものセンサーを使い自然に楽しみ、観察することができるのです。





大野さんのレクチャーの中で、参加された皆さんにこんなことをやってもらいました。袋の中に手を入れて、中にあるものを想像し当てるゲームです。中には「いちょう」と「楠の木」の葉っぱが数枚入っていたのですが、実際に皆さんから出てきた感想は非常に五感を使った、実におもしろいものでした。

手触りは「つるつる」しているものと「ざらざら」しているものがある。何か独特のにおいがある。形はこうだ、厚さはどうだ……。そして、おっかなびっくり手を入れていた顔が、葉っぱの形を手で確かめて、いつも見ているアレだ！なんてわかった時は、自然と顔がほころんでいました。目で見なくてもなんとなくイメージが湧いていたようです。これが実際に自然の中に自分がいたらどうでしょうか。更に音を聞いてみたり、おもいっきり香りをかいでみたり、雰囲気さえ感じ取ることができます。



次に自分が知っている銀杏の葉っぱを書いてもらいました。普段見慣れているだけに先入観もかなりあるようでしたが、スケッチを試みるのもまた新たな発見ができます。10人集まれば10通りの顔があるように、自然も同様、決して同じものはなく、日々変化し、成長していくことがわかります。

こんなふうに、自然に親しむことはちょっとしたことから始められます。「いつもオフィスの窓から見える風景をスケッチしてみる。高いビルであれば、鳥の視点と同じに町の風景が見られる。そして疑問に思ったこと、気づいたことを月に1度でもみんなでお話の機会をもてる観察会を開けば、もっと身近な自然のことがわかり、自然を身近に感じられるはずです」と、大野さんはしめくり、室内での「お昼休み自然観察会」は幕を閉じました。

伊藤忠商事では、企業として、また社員のひとりひとりが自主的に社会貢献活動を積極的に実践しているということで、今回、社会貢献活動委員会の事務局として、全社的な社会貢献の推進業務に携わっている社会貢献チームの佐藤寿子さんにお話を聞かせていただきました。

「伊藤忠商事は、国際的視野に立って、『良き企業市民として果たすべき役割を自覚し、国内のみならず、国際的にも社会貢献活動を実践し、豊かでゆとりのある社会の実現を目指します』という基本理念のもと、企業とし



での組織が発足したのが、1991年です。その頃の日本はバブルの時代。人々の生活にもゆとりがあり、ちょうど社会福祉や環境保全、自然保護にも積極的に目が向けられるようになった頃ではないでしょうか。



そんな時代の流れとともに、企業内でも会社として広く社会貢献活動を行ったり、また社員の実践する社会貢献活動を積極的に支援したりする制度が策定されました。

会社のボランティア活動としては、1.社会福祉（身障者介護ボランティア）、2.国際交流、3.環境保全、4.教育・文化・芸術、5.地域活動、5.その他施設の開放や献血等、幅広く活動を行っています。

毎年夏に開催される、ロビーコンサートでは社員が積極的に身障者の介護にあたりたり、アサヒビールの夕べ（チャリティー・オークションやバザー）では役員や社員が持ち寄ったブランドのスカーフやゴルフクラブなどをオークションにかけたりして、売上金を被災地支援または難民支援活動をするN G O団体等へ寄付しています。

また、社員のボランティア活動では、「できることから始めよう」を合言葉に、「ふれあいのネットワーク」というボランティア組織が1994年に結成され、現在会社の全面協力のもとで行う行事や自主行事の運営、ボランティアを募集している社内外からの行事の情報伝達や参加、会員の情報交換を行っています。会員数は社内約80名です。

身近な活動内容としては、1.献血（200名近くの受付者数）、2.東京本社前の銀杏並木の清掃（月1回、昼休みに実施。青山がますます美しい町であるように）、3.募金活動（災害時の義援募金、自然を守る募金。なお、自然を守る募金には会社のマッチングシステムが適用され、社員の募金で集まった同額を会社からも上乗せして寄付している）、4.使用済みの切手/テレカの回収や仕分けなどです。

これらの社会貢献活動について、社員の方々の反響は、参加したい気もあるかもしれませんが、日常の仕事が忙しくなかなか余裕がないのが現状のようです」



最後に、これから何をやってみたいかを伺ったところ、「社会貢献に対するマインドを持ってもらいたい」と一言。そのために、オフィスを離れて自然にふれてみる機会や関連映画の上映会、時間の取れない方も参加できるように屋内での活動、それらのP Rなど、



新しいことをどんどん取り入れていきたい。と熱心に語って下さいまし

た。

最近では駅構内やマンション・公共施設などのバリアフリー化、リサイクルできる資源は何でもリサイクル。人にも地球にもやさしい、住みよい町にするために、世の中がどんどん変わっていく時代になってきました。そして、私たち人間だけが豊かに暮らすのではなく、この地球のすべての植物・生物も同じ事です。ですから、まわりの美しい自然を守っていかなくてはならないことを再認識しなくてはなりません。私たち個人としては、身近なところから、そして自分のできることから始めることが大切だと思います。ボランティアというと、「きっかけがない」「ちょっと恥ずかしい」「どうしたら良いのかわからない」など、なかなか実行できる機会がなかったように思われますが、まずは関心をもつこと、そして何かを始めるちょっとした勇気が必要なのではないでしょうか。

Copyright(c)2003 THE NATURE CONSERVATION SOCIETY OF JAPAN,All rights reserved.